

現状の業務プロセス

配筋検査ツール導入後の業務プロセス

準備
計測機器（メジャー、ノギス等）の準備、持込みに手間を要する。

準備
計測機器の準備不要
(タブレット等の持込みのみ)

作業に要する時間はほぼ無し

計測
検査箇所の一つ一つ計測機器を設置するのに手間を要する。
抜き取り検査

計測
タブレット等で検査箇所をスキャンするのみ(市販のアプリで可能)。基本的な検査項目は許容誤差内で測定可能
全数検査⇒品質向上

現行の検査業務が大幅に効率化

立会検査
計測結果を工事黒板にチョーキングし現地で検査官とともに写真撮影するのに手間を要する。

検査
計測結果は生成されたモデル上に自動保存。従来より多くの箇所を抜き取って検査でき、品質が向上。図面の紐づけにより、後日でも検査可能。

5m×5m程度の面積を1回でスキャンし、データアップロードを数10秒、モデル化作業も数10秒にて完結

後片付け
計測機器の撤去、現場から搬出を行うのに手間を要する。

後片付け
計測機器の後片付け不要

作業時間無し

帳票作成
帳票作成に手間を要する。(チョーキングとの二重作業)

帳票自動作成
帳票が自動で作成される

作業に要する時間はほぼ無し